

～ アンコンシャス・バイアスに気づくことで見えてくること ～

「アンコンシャス・バイアス」という言葉を耳にすることが多くなってきた。自分自身が気づいていないものの見方や捉え方のゆがみや偏りのことをいい、無意識の思い込みということだ。誰もが何らかのアンコンシャス・バイアスをもっており、それ自体が直ちに悪影響を与えるわけではないとはいうものの、何気ない日々の行動や言動によって現れることがある。相手を見下すような態度をとったり、心無い発言をしたり、相手の発言に対して眉をひそめたりなど・・・

以前、「男女に関する無意識の偏見」について、1年間を通して学ぶ高校があるという報道があった。授業をするのは校長先生。「授業の中で自分たちの中にあるアンコンシャス・バイアスに気づき、自由な考え方や行動ができるようにこの授業を作った」と語る。グループワークで男子生徒が「自分たちが真剣に考えなければいけない問題だと思ふ。性別の役割に縛られず自由に生きていくことが大事だ」と話しているのが印象的だった。

自分の中にもあるアンコンシャス・バイアスに気づけるかどうかで大きな意味があると感じた。家庭、職場、社会の中で自分のしぐさや言動が相手の心を傷つけてしまうことがあるかもしれない。相手の心無い言葉に傷つくこともあり得る。それを分かってもらうためのコミュニケーションも必要なのかも・・・



hirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会

7月10日・10月2日にhirosaki smart project 女性活躍推進異業種交流会をヒロロで開催しました。

第1回目は「文房具から始められる働き方改革」(協賛:株式会社弘前事務機器商会)をテーマに、大丸株式会社神山亜弥子さんにご講演いただいたほか、最新の文房具を実際使用してみるなど、参加者も興味津々の様子でした。



第1回目の様子



第2回目の様子

第2回目は、当市の健康増進課より弘前市の健康実態や血圧の基礎知識などについてお話いただきました。減塩タイプのお菓子の食べ比べや、最新の体組成計で測定体験を行うなど、自分のからだのことや健康づくりについて、あらためて考える機会となりました。

編集後記 第68号の編集を終えて

平成30年の古い上着は未練たらしく脱ぎ捨てた。令和の装いに変わったが、不器用な私は新しい記事が書けたらうか。慣れるまではまだ時が必要だ。新しい時代は、何かが変わる兆しの予感があってわくわくする。梅

人生最後になるだろう職場に移って1年。一気に下がった平均年齢の中で働くのは刺激的だ。と同時に今まで気づかなかったことに遭遇することが多く、60代半ばにして学ぶことがなんと多いことか。若い力に感謝！ 森

年号が変わると共に「参画だより」も企画編集が変わりました。これからも弘前市が人にやさしく、住みやすい町で輝いている人が沢山いることを伝えていくのを役割として、わくわくしながら伝えていきたいと思ふ。

By のん

■ 編集発行 弘前市企画部企画課ひとづくり推進室
〒036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1
電話：0172-26-6349 (直通) FAX：0172-35-7956
E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp
※4月から男女共同参画の担当が市民参画センターから企画課に変わりました。



参画だより

No.68
令和元年10月発行
弘前市企画部企画課

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

平成30年11月、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に、櫻田市長が青森県内のリーダーとしてはじめて賛同しました。

今後は、行動宣言の内容を踏まえ、「自ら行動し、発信する」「現状を打破する」「ネットワーキングを進める」の考えのもと、女性の活躍推進に向けて取り組んでいきます。

〇「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」とは

女性の活躍を加速するためには、組織のトップ（リーダー）が積極的に関わり、具体的な取組を進め、取組の輪を広げていくことが必要であるという考えに基づきはじまったムーブメント。

令和元年8月1日現在、全国で232名、青森県内では櫻田市長と弘前大学の佐藤敬学長が賛同しています。

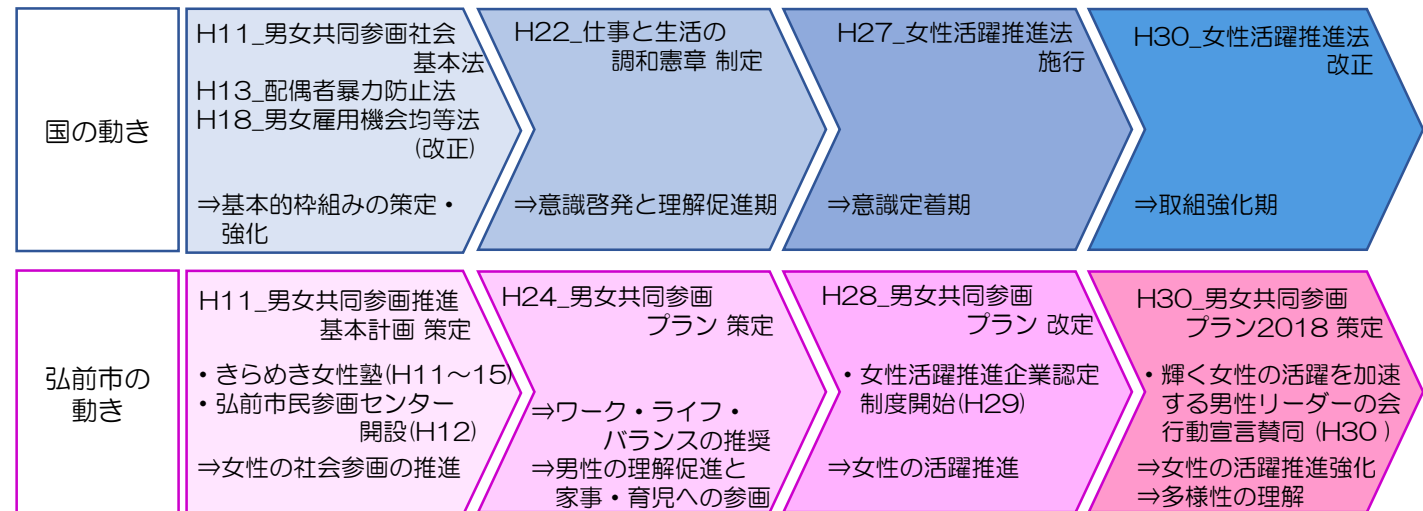


「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言

弘前市男女共同参画プラン2018～2022

〇弘前市男女共同参画推進基本計画策定から20年

平成11年3月に「弘前市男女共同参画推進基本計画」が策定されてから、今年が20年目にあたります。20年間の歩みを振り返ります。



〇弘前市男女共同参画プラン2018～2022の特徴

- ①女性のエンパワーメント（潜在的に有している能力を引き出すこと）支援の促進
- ②ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進
- ③職業生活における女性の活躍推進
- ④性的マイノリティへの理解促進
- ⑤男女共同参画の視点に立った防災対策

➡「一人ひとりが互いを尊重し合い心豊かに暮らせるまち弘前」の実現に向けて取り組みます。

弘前市女性活躍推進企業のご紹介

平成31年4月から新たに弘前市女性活躍推進企業に認定された企業をご紹介します。

○女性活躍推進企業認定制度とは

弘前市では、女性の活躍を推進するため、女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業等を募集し、「女性活躍推進企業」として認定しています。

(令和元年8月末現在認定数 46社)

女性の雇用環境を改善させることは、企業全体の成長、企業イメージの向上につながると言われています。

弘前市女性活躍推進企業への申請をお待ちしております。

○新規認定企業 平成31年4月から令和元年8月末まで



第44号認定
国立大学法人
弘前大学

第45号認定
弘和建設株式会社

第46号認定
一般財団法人
医療と育成のための
研究所清明会

第47号認定
株式会社弘前公益社



弘前市女性活躍推進企業認定マーク

『さんかくネット』をご存知ですか？

さんかくネットは、子育てと仕事・社会参加の両立ができるように、子育てをしている保護者を支援するシステムです。用事などで一時的に子どもを預かってもらいたい人と、あらかじめ登録しているサポーター（子どもを預かってよいという人）の仲介をしています。

○対象年齢 生後3ヶ月から小学校6年生

○預かる場所 原則としてサポーターの自宅

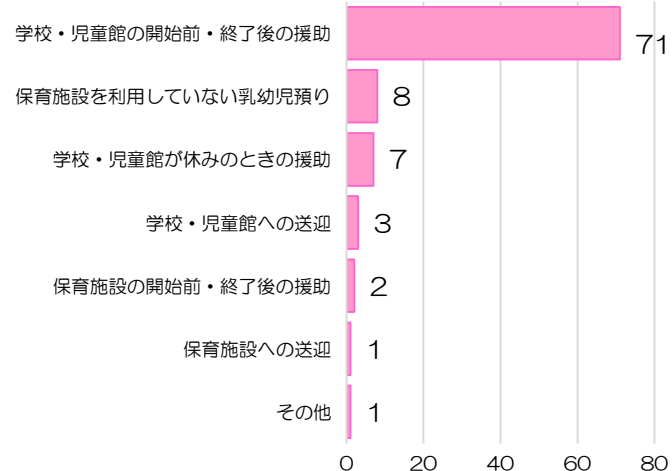
○利用料金

一般 保育	平日 8時～18時	30分で300円
	平日 上記以外の時間	30分で350円
	土曜・日曜・祝日	30分で350円
集団 保育	依頼者が個人でない 場合	30分で500円

詳細につきましては、下記までお問合せください。

利用申込み・お問合せ… さんかくネット（弘前市企画部企画課内）まで
電話：0172-31-2501 FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp
受付時間：月～金（土・日・祝日・年末年始除く）8時30分～17時

○平成30年度個人内容別件数(複数依頼含む)



新企画

きらめく人、ときめく心

☆今回のきらめく人 長内 うめ子さん

新企画「きらめく人、ときめく心」では、地域で様々な活動をされている人にスポットを当て、参画だよりの編集委員がインタビューした内容をご紹介します。第1回目は、参画だよりの編集委員でもある、長内うめ子さんを紹介します。

どこにこんなにバイタリティがあるのかと思うほど活動的な長内さんですが、意外にも若い頃は自分に自信がなく、PTA副会長・会長時代の経験、民生委員、市主催のきらめき女性塾等での様々な人との出会いが今の自分をつくったのだそうです。

○民生委員での経験

民生委員の活動では、玄関先で怒鳴られたり、長時間にわたりお話を聴いたり、時には夜遅く呼び出されたこともありましたが、親身に寄り添うことで信頼関係ができました。時には失敗したこともありましたが、助けてくれる人にめぐり会えたことも大きな財産になっているそうです。

○小学校の読み聞かせボランティアでの経験

週に1回、小学校1・2年生を対象に行っていて、なるべく分かりやすい本を選ぶように気をつけているそうです。読み聞かせの日に小学校の玄関に行くと、子どもたちから「今日は何の本?」「今日は何組?」と聞かれ、つつい顔がほころぶそうです。また、子どもたちから年に1回、感謝状や本の感想を書いた手紙をもらったことに感動し、それを励みにしているとのこと。

長く福祉に携わってきても法律や対応については毎年勉強しなければならず、これで良いということはないのだそうです。先日まで病気のため療養されていましたが、まだまだ頑張ると話しているその姿は、ますます魅力的になりきらめいていました。



長内うめ子さん(写真右)の主な活動内容
民生委員、保護司、参画だよりの編集委員、
地区体育協会事務局、小学校読み聞かせボ
ランティア、きらめき会事務局、ハンサム
ウーマンメンバー等

わたしと本

梅 編集委員



私が子供の頃（昭和30年代）はテレビがそれほど普及しておらず、貸本屋や友人との回し読みなどで本を読むことは身近で、現実逃避に浸る時間でした。思春期の悩みを抱えていた高校時代、雑誌の付録で読んだ石坂洋次郎の作品に元気づけられました。大人になり東京で働き、2時間の通勤時間でドストエフスキーやスタンダール、パールバックなどの長編を読み、（中でもパールバックの「大地」は子どもにも読ませたいと思った名作です。）源氏鶏太が描くサラリーマンの世界観にストレス解消され、山本周五郎や松本清張が充実した時間をくれました。

結婚後は、「スポック博士の育児書」、「家庭の医学」などの実用書や子どもと一緒に絵本を読むようになり、少しの時間をみつけてその年の話題作などを読んでいました。

小学校での読み聞かせをボランティアで行っている今では、仲間が紹介してくれる絵本が面白くてハマっています。低学年の子どもたちを対象にした読み聞かせでは、年に1回必ず読む本があります。それは戦争下の上野動物園の象を題材にした「かわいそうなぞう」です。命を失う悲しさを伝えたいと思い、今でも子どもたちに読み聞かせています。これからも、パソコンと本をシェアしながら読み続けたいと思います。私の読書は乱読、でも読むと止められない(^。^)

○梅 編集委員の思い出の本

- ・「罪と罰」ドストエフスキー
- ・「赤と黒」スタンダール
- ・「大地」パールバック
- ・「堂々たる人生」源氏鶏太
- ・「三十ふり袖」山本周五郎
- ・「点と線」松本清張
- ・「スポック博士の育児書」ベンジャミン・スポック
- ・「家庭の医学」
- ・「スーホの白い馬」再話：大塚勇三
絵：赤羽末吉
- ・「かわいそうなぞう」作：土家由岐雄
絵：武部本一郎